

2013年 5月18・19日

# 西日本リーグ戦 WRESTLING



## KYUSHU KYORITSU UNIVERSITY WRESTLING TEAM

西日本学生春季リーグ戦の二部リーグは、創部5年目の九州共立大が初の二部優勝を決めた。全勝同士の激突となった6回戦で、初めて二部リーグに降格した同志社大と激突。勝負はチームスコア3-3となり、“大将戦”の84kg級までもつれ、濱口祐志が同志社大の大藤寛士を下して4勝目をマーク。初の栄冠を引き寄せた。

昨年は春秋ともに2位、あと一步で昇格を逃していたこともあり、九州共立大のベンチは盛り上がり、4年間チームを支えた三島涼太郎主将が胴上げで宙を舞った。元全日本学生王者の藤山慎平コーチは、「(昨季は両季ともに2位で)やっぱりリーグ戦は勝つのが難しいと思った。今回もポイントゲッターでアジア・ジュニア選手権代表の柏本心が負傷し、予定通りいかない部分があったが、みんながよく頑張ってくれた」とチームの総合力を評価した。■初日も大勝するも、コーチは激怒「スキを見せたくない」初日は三島主将の調子が今ひとつ。チームは勝ったものの、主将は関西学院大、天理大戦と連敗。昨年からようやく全階級のエントリーができるまで選手層が厚くなり、総合力は二部でダントツだが、藤山コーチは1ミリたりともスキを作りたくなかった。関西学院大は5-2、天理大戦は6-1と大勝したにもかか

わらず、主将の敗退を見逃さず、試合後は全選手の前で「何やってるんだ！お前のためにやってるんだ！」と雷を落とした。藤山コーチは「油断させられなかったし、(他大学に)すきを見せられなかった」と、主将に激を飛ばした経緯を振り返る。2季連続2位のあとの3度目の正直のチャンスをどうしても生かしたかったからだ。さらに言うと、創部は2009年だが、三島が事実上の一期生。藤山コーチは「今大会、三島のためにみんな闘ったんです。4年生が一部リーグに出場するには、この春優勝しないとならなかった」と振り返った。



九州共立大学 レスリング部  
コーチ 藤山 慎平

優勝して今はホッとしています。創部してから5年、リーグ戦に参加してから4年が経ちましたが、ここまで長かったです。昨年あと一步で優勝を逃した悔しさをみんなが忘れずにチームが一丸となったことで優勝できました。これで4年生の三島主将を一部リーグで戦わせたいという選手達の想いも実現します。秋には一部で優勝できるよう今のモチベーションを持って練習していきます。いつもお世話になっている福田敬治監督にも恩返しできてよかったです。